

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

- ・近代芸術が本来の芸術がもっていた相互的で動的な性質を喪失したことを論じた評論からの出題。
- ・本文の分量は昨年度よりも半頁ほど減少している。すべて記述説明であり、設問数も四問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(15行)に比べ14行と1行減少した。
- ・本文分量、記述分量ともに減少しているが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並とみられる。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問四がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	福田恆存 『芸術とはなにか』(一九五〇年)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	随筆	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 「ドラマ」と「タブロー」の対比を読み取って、誰(と誰)が何を〈為す〉のかを明確に説明したい。
		問二	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 童話劇での呼びかけがもたらす効果と映画の筋書の作られ方との違いに着眼して説明する。
		問三	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 近代劇における観客の没主体性を踏まえて、傍線部の比較の構造を反映したわかりやすい説明をしたい。
		問四	記述式	標準	傍線部に関わらせた趣旨の説明の問題。(解答欄5行) 「芸術の創造や鑑賞のいとなみ」が本来どのようなものであるかを本文全体から踏まえたうえで、それとは対極にある近代芸術における「孤独」というものを、わかりやすく説明したい。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・□ではしばしば評論や随筆がとりあげられている。だが、いずれであっても、文章の主題や筆者の主張を全体からの確に把握するとともに、個々の文脈を丁寧にたどって正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問のそれぞれがどのような意図をもっているか、その狙いを見極める訓練、その理解に応じた記述の練習を積み重ねておく必要がある。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

・死の不安を抱えながら純粋な精神生活を歌集に遺した名もなき一人の結核患者を哀悼しながら、人間にとっての死と生の意味について思いをめぐらせた随筆からの出題。
 ・含蓄に富んだ問題文であり、そこから解答に必要な内容を過不足なく読み取り、解答欄に収まるようにまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	福永武彦「小山わか子さんの歌」(一九四九年)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	随筆	問一	記述式	標準	傍線部の理由説明問題。(解答欄2行) ※第1段落の段落の内容を踏まえながら、解答欄に収まるように簡潔にまとめる。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容説明問題。(解答欄3行) ※傍線部の表現に留意しながら、第2段落の内容を中心に説明する。
		問三	記述式	やや難	傍線部の内容説明問題。(解答欄4行) ※本文全体を視野に入れるとともに、設問の条件にも留意し、最終段落を中心にまとめる。 ※答案のまとめ方に工夫がいる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

・□は理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって問題の水準は決して平易とはいえない。文理共通問題□のレベルにも対応できるように学習しておきたい。
 ・文章のジャンルを問わず、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体からの確に把握するとともに、文脈を精確に理解する読解力とその内容を適切に説明する記述力が不可欠である。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

- ・江戸時代後期の随筆からの出題であった。
- ・昨年と同様、解答数は三つであった。
- ・設問構成は昨年とちがい現代語訳一つと、説明問題二つであった。
- ・昨年は本文と注に和歌があり、設問にもかかわったが、今年はなかった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『後松日記』 (松岡行義)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約600字 (前年約360字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随筆	問一	記述式	標準	理由説明問題。「急なるがわるきなり」の理由を説明するのであるが、解答根拠の一部が傍線部(2)の後「全て古き名残……思ひみにけん」であることに気が付くことがポイント。(解答欄3行)
		問二	記述式	標準	「指示語と比喩の指す内容を明確にしつつ」という条件付きの現代語訳問題。「その世に」の指示内容、「谷の埋もれ木の引きかへて花やぐ」の比喩を説明することがポイント。「またなく」「時めきし」「いたづら人」の訳出がポイント。(解答欄3行)
		問三	記述式	標準	説明問題。傍線部の前にある「このかしこき新君たちも……よしとし給へば」を踏まえて、傍線部をわかりやすく説明するところがポイント。(解答欄3行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・中世・近世の随筆からの出題は、京大理系古文の一つの流れなので、随筆や歌論にも慣れておく必要がある。
- ・昨年の出題を考えると、私家集の詞書や日記などの文章にも慣れておく必要がある。
- ・時には平安時代の作品も出題されているので、多様な時代・ジャンルの文章に慣れておこう。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
- ・本文全体を現代語訳できるかどうか京大理系古文の根本である。現代語訳をする練習がいちばんに望まれる。
- ・今年は和歌についての問題が出題されなかったが、例年よく出されるので、和歌の修辞、現代語訳、趣旨の説明など、和歌の対策は必ずしておきたい。